

## 上方文人文化の牽引者 山本竹雲の生涯とその芸術

代表研究者 村田 隆志

大阪国際大学 国際教養学部 国際観光学科 准教授 (平成 28 年 3 月時点)

---

### 研究要旨

山本竹雲（1820～88）は幕末から明治初期にかけて上方で活躍した人物である。篆刻、南画を能くし、当時流行の漢籍詩文の教養に富み、漢詩人としても知られ、煎茶道具の鑑定にも長じた竹雲は、明治初期の上方の文人文化を牽引した人物であったといえる。煎茶道は現代でも上方を中心として行われているが、今なお竹雲の目を経た、彼の箱書を持つ道具が珍重され、高い評価を得ていることは、彼の往年の盛名の象徴といえる。

しかし、竹雲本人の伝記や芸術については没後 130 年を経ようとしている今日にあっても、いまだ網羅的な研究が行われていない。これは彼が煎茶道具の収集に専心するあまり、妻を離縁していたこと、彼が 1888 年 4 月 27 日に入水自殺を遂げたことによって、関係資料が遺族のもとに保たれず、拠るべき資料が乏しいという研究上の制約があったことが要因として挙げられる。この結果、竹雲がどのような生涯を送り、どのような作品を制作していたのかについては断片的にしか知ることができない状況にあった。

本研究は、この欠落を補填するべく、山本竹雲の生涯とその芸術についての網羅的研究を行ったものである。出生地である倉敷市味島や、後半生を過ごした京阪神、滞在して煎茶文化を唱導した福井をはじめとする関連地域での文献・作品調査を通じてその生涯を明らかにすることに努めた。並行して、全国各地に分蔵されている山本竹雲の絵画および篆刻作品の調査を進め、その芸術的特質についても明らかにした。さらに、竹雲自身の制作による作品だけでなく、その箱書や添状を持つ煎茶道具についても対象とし、多角的に研究を深めた。これにより、従来ほとんど不明であった山本竹雲の生涯について、新たに様々な事跡を明らかにすることができた。